



社団法人 日本機械学会

The Japan Society of Mechanical Engineers

関東支部神奈川ブロック

2006 年度 年次総集

第17回神奈川県産官学交流会

「技術で支える安心・安全を神奈川から」

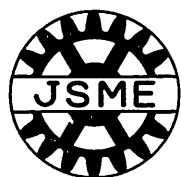
同時開催

神奈川ブロック(第13期)総会・表彰式
石川島播磨重工業(株)横浜事業所 見学会

開催日時：2006年11月10日(金)

会 場：石川島播磨重工業(株)横浜事業所

2006



社団法人 **日本機械学会**

The Japan Society of Mechanical Engineers

関東支部神奈川ブロック
2006年度 年次総集

第17回神奈川県産官学交流会
「技術で支える安心・安全を神奈川から」

同時開催

神奈川ブロック（第13期）総会・表彰式
石川島播磨重工業（株）横浜事業所 見学会

開催日時：2006年11月10日（金）

会場：石川島播磨重工業（株）横浜事業所

2006年度 (社)日本機械学会関東支部神奈川ブロック

年次総集

目次

第1章	2006年度関東支部第13期神奈川ブロック総会	1
1-1	あいさつ(神奈川ブロック長)原村嘉彦	3
1-2	あいさつ(関東支部長)久保田裕二	4
1-3	第13期(2006年度)神奈川ブロック商議員	5
1-4	第13期(2006年度)神奈川ブロック運営委員	6
1-5	第13期(2006年度)関東支部役員	7
1-6	事業報告および事業計画(2006年度中間報告・計画)	8
1-7	各行事の概要および報告	9
(1)	第16回神奈川県産官学交流会「次の世代に伝えたい～もの作りのDNA」	
(2)	企業見学会「JHFCパーク」	
(3)	第11回神奈川フォーラム 「新エネルギー技術による環境負荷低減への取り組みと将来展望」	
(4)	小中高校生のための見学会「全日空 機体工場見学」	
(5)	神奈川ブロック学生会夏季研修会(見学会・講演会) 「第三海堡撤去物見学と港湾工事関連技術に関する講演」	
(6)	第17回神奈川県産官学交流会「技術で支える安心・安全を神奈川から」	
1-8	2006年度神奈川ブロック表彰者一覧	26
第2章	第17回神奈川産官学交流会	29
	テーマ「技術で支える安心・安全を神奈川から」	
2-1	あいさつ	31
	(産官学交流会実行委員長)石川島播磨重工業(株)横浜事業所長 川島鋭裕	
2-2	講演要旨	
	<u>特別講演</u>	
	「ボイラ機器の信頼性設計 ～不具合から得た教訓～」	33
	浜中順一 (石川島播磨重工業(株)顧問)	

講演会

講演 1 「自動車安全技術の向上」	35
木下明生 (日産自動車(株) 総合研究所モビリティ研究所長)	
講演 2 「IT と RT(Robot Technology)を基盤とした国際救助隊サンダーバードの実現を目指して」	43
松野文俊 (電気通信大学教授, NPO 国際レスキューシステム研究機構副所長)	
講演 3 「安心・安全に寄与する短距離レーダ開発 生存者探査機 ～バイタルサイン測定からセキュリティー用途まで～」	50
後藤眞二 (タウ技研 企画開発部長)	
第 3 章 第 1 1 回神奈川フォーラム	59
テーマ:新エネルギー技術による環境負荷低減への取り組みと将来展望	
(1) 新エネルギー普及における機械工学の役割	61
黒川 淳一 (横浜国立大学)	
(2) 温暖化対策としての新エネルギー導入促進～省エネと創エネ～	66
高久 道男 (神奈川県)	
(3) 燃料電池車の現状と課題	74
萩原 太郎 (日産自動車)	
(4) 廃棄物発電の拡大と課題	83
鈴木 康夫 (J F E エンジニアリング)	
(5) 画期的省エネ・CO ₂ 対策に遠赤外線ヒーター	89
加藤 正顕 (日精オーバル)	
(6) クリーンコールテクノロジーに向けた電力の取り組み	101
佐藤 幹夫 (電力中央研究所)	
第 4 章 (社) 日本機械学会関東支部関係	113
4-1 関東支部 第 1 2 期総会・講演会	115
4-2 関東学生会学生員卒業研究発表講演会	129
第 5 章 関東支部発行学会通信誌	133
5-1 JSMEdia 2006年10月号	135

第 1 章

2006 年度関東支部第 13 期神奈川ブロック総会

1-1	あいさつ（神奈川ブロック長）原村嘉彦	3
1-2	あいさつ（関東支部長）久保田裕二	4
1-3	第 13 期（2006 年度）神奈川ブロック商議員	5
1-4	第 13 期（2006 年度）神奈川ブロック運営委員	6
1-5	第 13 期（2006 年度）関東支部役員	7
1-6	事業報告および事業計画（2006 年度中間報告・計画）	8
1-7	各行事の概要および報告	9
	(1) 第 16 回神奈川県産官学交流会「次の世代に伝えたい～もの作りの DNA」	
	(2) 企業見学会「JHFC パーク」	
	(3) 第 11 回神奈川フォーラム 「新エネルギー技術による環境負荷低減への取り組みと将来展望」	
	(4) 小中高校生のための見学会「全日空 機体工場見学」	
	(5) 神奈川ブロック学生会夏季研修会（見学会・講演会） 「第三海堡撤去物見学と港湾工事関連技術に関する講演」	
	(6) 第 17 回神奈川県産官学交流会「技術で支える安心・安全を神奈川から」	
1-8	2006 年度神奈川ブロック表彰者一覧	26

あいさつ
2006 年度神奈川ブロック総会，第17回神奈川県産官学交流会の
開催にあたって

日本機械学会関東支部第13期
神奈川ブロック長 原村 嘉彦

本日は，多数の参加者を得て，日本機械学会関東支部神奈川ブロック総会ならびに神奈川県産官学交流会を開催することができました。ブロック長である私にとって，大きな喜びであります。ご協力をいただいた石川島播磨重工業株式会社，ブロック運営委員をはじめとする関係各位に感謝申し上げます。

日本機械学会は，学術的・技術的な研究成果を集め，それを公開することによって機械技術を牽引し，また講習会等をとおして専門分野の知識や技術を広めることを大きな目的として活動しています。しかしそればかりでなく，見学会や広い視野に立った講演会などをとおして，会員が一般的な機械関連の見聞や知識などを身につけるための活動，また，将来の日本を担う子どもたちに機械に興味を持ってもらう活動も行っています。これらは主に，支部，そしてその末端組織であるブロックが担っています。総会では，この1年間のブロックの活動を紹介し，皆様にその活動へのご理解とご協力を賜りたいと考えています。

その後，産官学交流会となりますが，今回は，「安全・安心」をテーマとして特別講演と2件の講演が予定されています。この産官学交流会は，日本機械学会が支部組織を立ち上げる数年前から，産業を支える機械関連の企業人，機械工学系の学科に所属する大学人，さらに県やその他の研究機関の人間が，人の輪の中から新しい技術を生み出していこうという意気込みで集まって開催されてきたもので，今回は17回目に当たります。工場見学，懇親会を含め，楽しんでいただければ幸いです。

我が国の産業は，最近やや明るさを取り戻していますが，アジアを中心とする各国の追い上げにあい，他にまねのできない技術を持っていなければ生き残れないという厳しい現状が続いています。しかし大きな課題に立ち向かう場合，技術者がひとりでやるよりも同僚とチームを組んでやる方がうまくいきます。さらに，立場の違う人々と話をする中で課題を解決する糸口を見つけることも多いでしょう。今日のような交流の場を大いに生かし，自身を高め，ひいては日本全体の活力に結びつけることができるよう，切に願っております。

2006 年度神奈川ブロック総会および産官学交流会の開催にあたって

日本機械学会関東支部長 久保田裕二

神奈川ブロックの皆様には、日ごろの活発なブロック活動により関東支部を支えていただいていますことに心より感謝を申し上げます。

私は関東支部の重要なミッションは、子供達への啓蒙活動を含めた人材育成への貢献と、産学の総合力発揮を誘発させられるような場の提供だと考えています。科学技術立国としてしか生きる道のない我国にとって、子供達の理科・技術離れは極めて深刻な問題ですし、開発・製造のグローバル化の進展に伴い激化する国際環境の中で我国の競争力に陰りが見え始めていることも大きな問題です。神奈川ブロックがこれら二つの問題に従来から真摯に取り組まれていることに敬意を表したいと思います。特に、我国のものづくりの中心である神奈川地区での産官学交流会は重要なイベントであり、この交流会がスピードと多様性が求められる技術開発において不可欠となる組織を超えた連携のための機会を与える場となり続けることを期待しています。

今回の産官学交流会が、「技術で支える安心・安全を神奈川から」というテーマを設定されたことは、非常にタイムリーであったと思います。耐震強度偽造、エレベータ異常動作、自動車リコール隠し、原発損傷隠し、湯沸し器不具合放置等、技術者およびメーカーに対し不信感を抱かせるような問題が多発しています。今こそ技術者自らが、人工物の信頼性と安全性を通じて現代社会を支えているプロフェッショナルとしての誇りと信頼を回復することに努めねばなりません。更にこれを技術者および技術者の集団である学会のプレゼンスを高めていくための好機とすべきだと考えます。関東支部としても機械技術者・研究者に対する社会からの信頼を高め、多くの子供達から憧れの職業として見てもらえるよう努力していきたいと思います。

来年は日本機械学会が創設されて110年目の年になります。また、今年制定されました「機械の日」(8月7日)に関連した活動を本格化する年でもあり、関東支部には今年以上に密度の濃い活動が期待されています。人材育成、産官学交流の場の提供、そして機械技術者のプレゼンスの向上に向け、神奈川ブロックの今後益々の発展を祈念するとともに関東支部への更なるご支援をお願い申し上げます。

日本機械学会 関東支部
第13期 神奈川ブロック商議員

〔☆：ブロック長，○：評議員，◎：評議員・商議員〕

No.	氏 名	勤 務 先	職 名
1	足立 正樹	(株)アマダ板金機械開発センター	係長
2	安藤 安則	石川島播磨重工業(株)技術開発本部	部長
3	宇高 義郎	横浜国立大学大学院工学研究院システムの創生部門	教授
4	植田 利久	慶應義塾大学理工学部機械工学科	教授
5	大金 宏明	日産自動車(株)総合研究所研究推進部	主担
6	奥村 秀人	神奈川工科大学工学部機械工学科	助教授
7	押野谷 康雄	東海大学工学部動力機械工学科	教授
8	香川 澄	防衛大学校機械システム工学科	教授
9	風尾 幸彦	(株)東芝電力・社会システム社技術開発センター	部長
10	粕谷 平和	東海大学工学部動力機械工学科	教授
11	金田 徹	関東学院大学工学部機械工学科	教授
12	河西 正彦	イースタン技研(株)	取締役社長
13	◎久保田 裕二	(株)東芝研究開発センター	首席技監
14	澤田 達男	慶應義塾大学理工学部機械工学科	教授
15	杉内 肇	横浜国立大学大学院工学研究院システムの創生部門	講師
16	鈴木 康夫	JFEエンジニアリング(株)鶴見事業所環境技術部	副部長
17	関 典明	(株)フルキャストセントラル技術部	CAEアドバイザー
18	中西 裕二	神奈川大学工学部機械工学科	助教授
19	中村 政弘	(株)いすゞ中央研究所車両研究第一部	部長
20	橋本 克巳	(財)電力中央研究所エネルギー技術研究所	主任研究員
21	長谷川 久夫	明治大学理工学部機械工学科	教授
22	馬場 政一	(株)日立製作所生産技術研究所	主管研究員
23	☆原村 嘉彦	神奈川大学工学部機械工学科	教授
24	本多 裕姫	三菱重工業(株)技術本部横浜研究所環境装置研究推進室	室長
25	松井 邦雄	石川島検査計測(株)材料試験部	部長
26	○丸田 芳幸	(株)荏原総合研究所機械研究室	室長
27	三栖 功	青山学院大学理工学部機械創造工学科	教授
28	三村 一郎	富士電機システムズ(株)川崎工場	技師長
29	宮武 俊弘	関東学院大学工学部機械工学科	教授
30	森 一俊	三菱ふそうトラック・バス(株)パワートレーン開発本部	部長
31	森棟 隆昭	湘南工科大学工学部機械システム工学科	教授
32	安田 誠	神奈川県産業技術総合研究所機械制御技術部	部長
33	康井 義明	東海大学工学部動力機械工学科	教授
34	藪田 哲郎	横浜国立大学大学院工学研究院システムの創生部門	教授

(社)日本機械学会関東支部神奈川ブロック第13期運営委員会

氏名	勤務先	所属	役職	担当
江上 正	神奈川大学	工学部機械工学科	教授	フォーラム 総務
大谷 利一	日産自動車(株)	総合研究所 研究実験試作部	次長	フォーラム
大谷 俊博	荏原総合研究所	材料研究室	主任研究員	
笠 俊司	石川島播磨重工業(株)	基盤技術研究所 解析技術部	部長	産官学
河西 正彦	イースタン技研(株)	本社	代表取締役社長	フォーラム 産官学
風尾 幸彦	(株)東芝	電力システム社 火力・水力事業部 火力・水力企画部	参事	フォーラム
粕谷 平和	東海大学	工学部動力機械工学科	教授	フォーラム
加藤 和典	湘南工科大学	工学部機械システム工学科	教授	総務
澤田 達男	慶應義塾大学	理工学部機械工学科	教授	小中高
下田 昌利	湘南工科大学	工学部機械デザイン工学科	助教授	フォーラム 産官学
杉内 肇	横浜国立大学	大学院工学研究院 システムの創生部門 システムのデザイン分野	講師	学生会 企業見学会
鈴木 康夫	JFEエンジニアリング(株)	環境エンジニアリング事業部、環境技術部	副部長	フォーラム
関 典明	株式会社フルキャストセントラル	技術部	CAEアドバイザー	産官学
辻森 淳	関東学院大学	工学部機械工学科	助教授	学生会 総務
中西 裕二	神奈川大学	工学部機械工学科	助教授	学生会 総務(幹事)
中根 一朗	神奈川工科大学	工学部機械工学科	講師	小中高 企業見学会
馬場 政一	(株)日立製作所	生産技術研究所	主管研究員	企業見学会
原村 嘉彦	神奈川大学	工学部機械工学科	教授	ブロック長
本多 裕姫	三菱重工業(株)	技術本部 横浜研究所 環境装置研究推進室	室長	フォーラム 企業見学会
松井 邦雄	石川島検査計測(株)	計測事業部 材料試験部	部長	産官学
三村 一郎	富士電機システムズ(株)	川崎工場	技師長	産官学
宮武 俊弘	関東学院大学	工学部機械工学科	教授	総務
村田 良美	明治大学	理工学部機械工学科	専任講師	
百瀬 晶	(株)アマダ	技術統括部	係長	産官学
康井 義明	東海大学	工学部動力機械工学科	教授	総務
安田 誠	神奈川県産業技術センター	機械制御技術部	部長	フォーラム
山本 英継	三菱ふそうトラック・バス(株)	実験本部 強度・材料実験部	課長	産官学 企業見学会

日本機械学会関東支部（第13期）役員名簿

	氏名	勤務先	職名
支 部 長	久保田裕二	(株)東芝 研究開発センター	首席技監
副 支 部 長	宇高 義郎	横浜国立大学 大学院工学研究院 システムの創生部門	教授
庶 務 幹 事	押野谷康雄	東海大学 工学部 動力機械工学科	教授
	水野 毅	埼玉大学 工学部 機械工学科	教授
広 報 担 当 幹 事	佐野 正利	千葉工業大学 工学部 機械サイエンス学科	教授
	宮崎 恵子	(独)海上技術安全研究所 運航・システム部門 運航・システム研究グループ	上席研究員
事 業 幹 事	松元 明弘	東洋大学 工学部 機能ロボティクス学科	教授
	杉山 均	宇都宮大学 大学院工学研究科 エネルギー環境科学専攻	教授
学 生 会 担 当 幹 事	澤田 達男	慶應義塾大学 理工学部 機械工学科	教授
	堀木 幸代	東京海洋大学 海洋工学部	助教授
会 員 担 当 幹 事	森 健次	(株)日立製作所 総合教育センタ 技術研修所	シニアプランニング マネージャ
	高原 弘樹	東京工業大学 大学院理工学研究科 機械物理工学専攻	助教授
表 彰 担 当 幹 事	吉本 成香	東京理科大学 工学部 機械工学科	教授
会 計 幹 事	江波戸明彦	(株)東芝 研究開発センター 機械・システムラボラトリー	主任研究員
	安藤 安則	石川島播磨重工業(株) 技術開発本部スタッフグループ	部長
監 事	宮武 俊弘	関東学院大学 工学部 機械工学科	教授
	古川 進	山梨大学 大学院 医学工学総合研究部工学学域 機械システム工学専攻	教授
ブ 東 京 神 奈 川 埼 玉 千 葉 茨 城 栃 木 群 馬 山 梨	石川 晴雄	電気通信大学 電気通信学部 知能機械工学科	教授・理事・副学長
	原村 嘉彦	神奈川大学 工学部 機械工学科	教授
	安齋 正博	(独)理化学研究所 中央研究所 先端技術開発支援センター アドバンスド・エンジニアリングチーム	チームリーダー
	菱田 誠	千葉大学 工学部 電子機械工学科	教授
	沼尻 到	(財)日本自動車研究所 総合企画研究部	主席研究員
	中條 祐一	足利工業大学 工学部 機械工学科	教授
	眞下 寛治	群馬県立群馬産業技術センター 企画管理グループ	グループリーダー
	小尾 誠	山梨大学 大学院 医学工学総合研究部工学学域 機械システム工学専攻	教授

**日本機械学会 関東支部神奈川ブロック
事業報告および事業計画一覧**

(2005年11月～2006年2月)

開催年月日	会議・行事名	会場（見学先）	会議事項（行事の場合はテーマ・講演数）	出席数
2005/11/18	第5回運営委員会	(株)東芝 京浜事業所	総会、産官学交流会運営の最終確認	21
2005/11/18	第12期総会	(株)東芝 京浜事業所	平成17年度行事の中間報告および神奈川 ブロック賞授与	97
2005/11/18	第16回産官学交流 会	(株)東芝 京浜事業所	次世代に伝えたい～もの作りのDNA	97
2005/12/9	第6回運営委員会	JHFCパーク	平成18年度行事の企画	19
2005/12/9	企業見学会	JHFCパーク	水素・燃料電池実証プロジェクトの施設 見学・試乗会	78
2006/1/27	第7回運営委員会	神奈川県産業技 術総合研究所	平成18年度行事の企画	17
2006/3/17	第1回運営委員会	神奈川県産業技 術センター	平成18年度行事の企画	17
2006/5/18	第2回運営委員会	神奈川県産業技 術センター	平成18年度行事の企画	21
2006/7/27	第3回運営委員会	神奈川県産業技 術センター	産官学交流会およびその他の行事の企画	21
2006/7/27	第11回神奈川 フォーラム	神奈川県産業技 術センター	新エネルギー技術による環境負荷低減の 試みと将来展望、講演6件	96
2006/8/28	小中高生のための 見学会	全日空機体工場	見学会	61
2006/9/1	学生会ソフトボ ール大会	追浜球場	ソフトボール大会	中止
2006.9.6-7	学生会夏期研修会	東京湾口航路事 務所展示室・追 浜展示場 関東学院大学葉 山セナハウス	第三海堡撤去物見学と港湾工事関連技術 に関する講演（見学会、講演1件、懇親会）	18
2006/9/27	第4回運営委員会	神奈川県産業技 術センター	産官学交流会に関する審議	17
2006/10/13	神奈川ブロック賞 選考委員会	神奈川大学	ブロック賞選考	
2006.11.1～ 2007.2.28 予 定				
2006/11/10	第5回運営委員会	石川島播磨重工 業横浜事業所	企業見学会運営の最終確認	
2006/11/10	商議員会	石川島播磨重工 業横浜事業所	平成18年度の行事についての意見交換	
2006/11/10	第13期総会	石川島播磨重工 業横浜事業所	平成18年度行事の中間報告および神奈川 ブロック賞授与	
2006/11/10	第17回産官学交流 会	石川島播磨重工 業横浜事業所	講演4件、見学会、懇親会	
2006/12/8	企業見学会	日産自動車横浜 工場	横浜工場・エンジン博物館の見学	
2006/12/8	第6回運営委員会	日産自動車横浜 工場	平成19年度の行事の企画	
2007.1	第7回運営委員会	未定	平成19年度の行事の企画	

第16回神奈川県産官学交流会および
神奈川ブロック総会（第12期）
「次の世代に伝えたい～もの作りのDNA」
（神奈川から世界に発信する革新技術）

第16回神奈川県産官学交流会を開催します。今回は「次の世代に伝えたい～もの作りのDNA」をメインテーマに久保田裕二氏（(株)東芝 研究開発センター技監）に「150年の時を越えて～万年時計復活プロジェクト」と題して特別講演を戴くと共に、“神奈川から世界に発信する革新技術”をテーマに神奈川県下の企業や研究所の方に事例紹介を戴く予定です。会場は(株)東芝 京浜事業所においており、大型エネルギー機器の工場見学を併せて行います。またこれらの行事に続いて懇親会を予定しておりますので、この場を活用して技術交流の実効を挙げていただければと思います。

なお、この行事は神奈川ブロックの本年度の総会と併せて開催するものですが、是非とも総会にもご参加いただき、今後の運営についてご助言いただければ幸いです。

開催日 2005年11月18日（金）13:00～18:30
会場 (株)東芝 京浜事業所
[横浜市鶴見区末広町2-4/JR鶴見線「新芝浦」駅下車]
参加費 3,000円（産官学交流会費（懇親会費を含む）、当日会場にて受付）
定員 100名（先着順）

プログラム

（第1部）神奈川ブロック総会（13:00～13:30）

- (1) 挨拶 神奈川ブロック長 加藤和典（湘南工科大学）
関東支部長 佐藤勇一（埼玉大学）

- (2) 神奈川ブロック活動報告

（第2部）産官学交流会（13:30～17:00）

「次の世代に伝えたい～もの作りのDNA」

- (1) 挨拶 産官学交流会実行委員長
服部靖弘（(株)東芝 京浜事業所 所長）
- (2) 特別講演「150年の時を越えて：万年時計復活プロジェクト」
久保田裕二（(株)東芝 研究開発センター）
- (3) 講演会「神奈川から世界に発信する革新技術」（各10分）
講演1「偏心圧縮を用いた高周波パイプベンダー」
佐藤徹（(有)オータス）
講演2「熟練技能を自動化する組立技術」

戸田正明（富士電機アドバンステクノロジー（株））

講演3 「ボイラ水管掃除ロボット」

吉永陽一（JFE 技研（株））

講演4 「家庭用 CO₂冷媒ヒートポンプ給湯機"エコキュート"の進展」

齊川路之（（財）電力中央研究所）

講演5 「全超電導モータの紹介」

竹田敏雄（石川島播磨重工業（株））

講演6 「磁気浮上モータを用いたキャンドポンプ」

佐藤忠（（株）荏原総合研究所）

（4） 工場見学（大型エネルギー機器の製造工場）（15：30～17：00）

（第3部）神奈川ブロック表彰式・懇親会（17:00～18:30）

申込方法 神奈川ブロックホームページにてお申し込み願います。

締め切り後、当日の案内状を送付させていただきます。ホームページが利用できない方は Fax か葉書で下記あてにお申し込みください。

湘南工科大学 加藤和典 Tel&Fax：0466-30-0163

〒251-8511 藤沢市辻堂西海岸 1-1-25

なお、定員に達し次第締め切らせていただきますのでご了承下さい。

申込先、問合せ先

神奈川ブロックホームページ「産官学交流会&ブロック総会」参加申込フォームをご利用ください。

（ <http://www.jsme.or.jp/kt/kanagawa/> ）

その他 （1）同業他社の方は、工場見学のみ、ご参加をご遠慮戴きますことをあらかじめご了承下さい。

（2）お車でのご来場はご遠慮下さい。

2005年12月9日

風尾幸彦（東芝）

日本機械学会関東支部神奈川ブロック（第12期）総会
&（第16回）産官学交流会の報告

- ・開催日時 2005年11月18日（金） 13:00～19:00
- ・開催場所 （株）東芝 京浜事業所
- ・参加者数（受付ベース） 97名

{	内訳 受賞者	12名
	講演者	7名
	役員（支部長、ブロック長、運営委員、商議員）	24名
	一般	27名
	学生ほか	27名

・進行

神奈川ブロック総会

神奈川ブロック長挨拶

関東支部長挨拶

神奈川ブロック活動報告

産官学交流会

実行委員長挨拶

講演会（特別講演 1件 & 一般講演 6件）

大型エネルギー工場見学

表彰式・懇親会

・総括

- (1) 多くの方に参加戴き、盛会のうちに終了した。
- (2) 講演会では活発な質疑応答と意見交換が行われた。
- (3) 懇親会にも多くの方に参加戴き、有意義な交流がなされた。

・事務的反省事項

- (1) 前回（総数117名、うち一般51名）に比べて特に一般参加者が少なかった。
- (2) 開始前の受付に若干時間が掛かかり、お待たせしてしまった。
- (3) 運営委員会、評議委員会の休憩場所、待機場所の案内が不十分だった。
- (4) 懇親会参加人数が予想より少なかった。

以上

2005 年度 神奈川ブロック見学会・講演会

JHFC パーク (燃料電池自動車と水素ステーションの見学)

開催日時 2005 年 12 月 9 日(金) 午前の部：9:30～12:00, 午後の部：14:00～16:30

見学先 JHFC パーク (水素・燃料電池実証プロジェクト) (住所：横浜市鶴見区大黒町 9-1)

趣旨 近年、エネルギー効率が高く環境負荷が少ない特徴をもつ燃料電池が注目を浴びており、自動車産業においても燃料電池自動車の開発が積極的に進められています。

JHFC とは「水素・燃料電池実証プロジェクト (Japan Hydrogen & Fuel Cell Demonstration Project)」のことであり、「燃料電池自動車実証研究」と「燃料電池自動車用水素供給設備実証研究」から構成されています。JHFC パークはこの実証研究のためのベース基地であり、燃料電池自動車 (FCV) や FCV 用の各種部品および燃料電池の作動原理などの展示、並びに水素ステーションも併設されています。

燃料電池自動車関連技術や水素エネルギーの実際を学べる世界初の複合施設として人気を博しています。今般、この最新技術の一端に触れる機会として、JHFC パークの見学会と燃料電池自動車の試乗を企画しましたので、皆様奮ってご参加ください。

内容

〈午前の部〉

9:20 JHFC パーク集合

9:30～12:00 ①燃料電池自動車や水素エネルギーの概要説明・講演、②ショールーム・ガレージ見学、③燃料電池自動車試乗、④質疑応答

〈午後の部〉

13:50 JHFC パーク集合

14:00～16:30 ①燃料電池自動車や水素エネルギーの概要説明・講演、②ショールーム・ガレージ見学、③燃料電池自動車試乗、④質疑応答

交通 JR 京浜東北線「鶴見駅」東口

横浜市営バス 1 番乗り場「17 系統」に乗車 (約 20 分)。「横浜火力発電所」下車すぐ。

(地図 → <http://www.jhfc.jp/park/pdf/jhfcparkmap.pdf>)

乗用車で来られる場合は、申込時に申請をお願いします。

定員 午前の部 40 名、午後の部 40 名 (先着順とし、満員になり次第締め切らせていただきます。)

参加費 無料

申込方法

(1) インターネット (E-mail) 申込

神奈川ブロックホームページ (<http://www.jsme.or.jp/kt/kanagawa/>) の参加申込フォームからお申込願います (なるべく申込フォームをご利用下さい)。

(2) FAX、ハガキ申込

「神奈川ブロック見学会・講演会」と題記し、①氏名②連絡先住所③電話番号、FAX 番号、E-mail アドレス④所属の企業、団体、大学名および部署名・学科・学年⑤申込コース (午前の部または午後の部)⑥駐車場の要否などを明記の上、下記宛にお申込願います。

三菱重工業(株) 横浜製作所 環境ソリューション技術部 (〒236-8515 横浜市金沢区幸浦 1-8-1)

土井 亨 Fax: 045-770-1126, Tel: 045-772-7210

注意事項 (1) 構内は全て禁煙となっています。(2) 同一組織からの申し込みが多数となる場合は、人数制限をさせていただく場合がありますので、ご了承下さい。

2006年1月17日

2005年度 神奈川ブロック見学会・講演会実施報告
(JHFC パーク)

運営委員 土井、三村、百瀬、関、杉内

開催日時：2005年12月9日(金) 9:00~12:00 および 13:30~16:30

見学先： JHFC パーク(横浜市鶴見区大黒町 9-1)

開催主旨：近年、エネルギー効率がよく環境負荷が少ない特徴をもつ燃料電池が注目を浴びており、自動車産業においても燃料電池自動車の開発が積極的に進められている。JHFC とは「水素・燃料電池実証プロジェクト (Japan Hydrogen & Fuel Cell Demonstration Project)」のことであり、「燃料電池自動車実証研究」と「燃料電池自動車用水素供給設備実証研究」から構成されている。JHFC パークはこの実証研究のためのベース基地であり、燃料電池自動車 (FCV) や FCV 用の各種部品および燃料電池の作動原理などの展示、並びに水素ステーションも併設されている。この最新技術の一端に触れる機会として、JHFC パークの見学会と燃料電池自動車の試乗を企画した。

スケジュール(括弧内は午後のスケジュール)：

9:00~(13:30~) 受付開始

9:30~10:30(14:00~15:00) 講義「燃料電池自動車と水素エネルギー」

10:30~11:30(15:00~16:00) 水素ステーション・ショールーム見学、燃料電池自動車試乗

11:30~12:00(16:00~16:30) 質疑応答、ブロック長挨拶・感謝状贈呈(午後のみ)、閉会

交通： JR 京浜東北線鶴見駅から横浜市営バスで 15 分

参加人員： 午前の部:39 名、午後の部:39 名(募集定員:午前、午後 各 40 名)

①一般参加者： 62 名

②神奈川ブロック運営委員： 12 名

③学生アルバイト： 4 名 合計 78 名

見学会は、会議室及び設備案内時の制限により、午前・午後の 2 回 (1 回の定員 40 名) に分けて実施した。

申し込みは、機械学会ホームページ、並びに、機械学会からのインフォメールによって申し込んだ方が大半であった。尚、申込者が多数であり、すぐ定員一杯となったため、ネット上で、申し込み受付締切りを実施した。(インフォメール発信後 3 日後に締切り)

委員感想：見学者との質疑応答や感想・アンケートから、近年積極的に開発が行われている燃料電池自動車に対する関心の高さが感じられた。

また、燃料電池自動車の試乗では、車内の静粛性と低速域での加速性能が通常の自動車と大きく異なることを直接肌で感じることができ、とても好評であった。

末筆であるが、JHFC パーク殿の多大なるご協力によって無事終了出来た事を付記する。

以上

第11回 神奈川フォーラム
新エネルギー技術による環境負荷低減への取り組みと将来展望
主催 日本機械学会関東支部神奈川ブロック
共催 神奈川県産業技術センター 後援 神奈川R&D推進協議会

日本機械学会神奈川ブロックでは、過去数年にわたり技術者教育の諸問題について、種々の角度から討論を重ねてきました。今回は視点をかえて、技術と社会環境の関わりの方から討論したいと思います。現代の社会は工業製品によってその豊さが支えられていますが、人類の飽くなき欲求により自らが住む地球の環境すら変えるほどの大きな影響を与えています。将来に向けて持続可能な社会を築くために、環境負荷の低減、特に新エネルギーの活用に焦点をあててテーマとして取り上げました。産・官・学それぞれの事例を交えながら闊達な意見交換の場を皆様と共有したいと思いますので、ぜひご参加いただき、有益な会にさせていただくことを期待しております。

開催日 2006年7月27日(木) 13:30～16:45

会場 神奈川県産業技術センター (<http://www.kanagawa-iri.go.jp/>)

[海老名市下今泉 705-1/JR, 小田急, 相鉄「海老名」駅より徒歩約17分]

参加費 無料

定員 70名

プログラム

話題提供とディスカッション (13:30～16:45, 講演各25分, 休憩10分)

挨拶

神奈川ブロック長 原村 嘉彦

1. 「新エネルギー普及における機械工学の役割」

横浜国立大学 黒川 淳一

2. 「温暖化対策としての新エネルギー導入促進～省エネと創エネ～」

神奈川県 高久 道男

3. 「燃料電池車の現状と課題」

日産自動車 萩原 太郎

4. 「廃棄物発電の拡大と課題」

JFEエンジニアリング 鈴木 康夫

5. 「画期的省エネ・CO₂対策に遠赤外線ヒーター」

日精オーバル 加藤 正顕

6. 「クリーンコールテクノロジーに向けた電力の取り組み」

電力中央研究所 佐藤 幹夫

総合討論 (30分)

申込み方法 電子メールまたはFAXにてお申し込みください。締切後または7月20日までに、案内状を送付いたします。なお、定員に達し次第締め切りますので、その際はご了承ください。

申込み・問合せ先 神奈川ブロックのメールアドレス：kanagawa@jsme.or.jp 件名に「神奈川フォーラム参加申込」と題記し、氏名、連絡先をお送りください。

お問い合わせとFAXでの申込み先

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋 3-27-1 神奈川大学工学部機械工学科 中西裕二

電話(045) 481-5661(代表) FAX (045) 481-5122

2006年7月31日

第11回 神奈川フォーラム実施報告

運営委員 安田、大谷、中西、風尾（記）

開催日時：2006年7月27日（木）13:30～16:45

会場：神奈川県産業技術センター（海老名市下今泉 705-1）

主催：日本機械学会関東支部神奈川ブロック

共催：神奈川県産業技術センター、後援：神奈川R&D推進協議会

テーマ：「新エネルギー技術による環境負荷低減への取り組みと将来展望」

開催主旨：本フォーラムは、過去数年に亘り技術者教育の諸問題について種々の角度から討論を重ねてきた。今回は視点をかえ、技術と社会環境の関わりの方から討論するため、将来に向けて持続可能な社会を築くための環境負荷の低減、特に新エネルギーの活用に焦点をあてて企画した。

プログラム：

話題提供とディスカッション（講演各25分、休憩10分）

挨拶

神奈川ブロック長 原村 嘉彦

1. 「新エネルギー普及における機械工学の役割」

横浜国立大学 黒川 淳一

2. 「温暖化対策としての新エネルギー導入促進～省エネと創エネ～」 神奈川県 高久 道男

3. 「燃料電池車の現状と課題」

日産自動車 井之口 岩根

4. 「廃棄物発電の拡大と課題」

JFEエンジニアリング 鈴木 康夫

5. 「画期的省エネ・CO₂対策に遠赤外線ヒーター」

日精オーバル 加藤 正顕

6. 「クリーンコールテクノロジーに向けた電力の取り組み」 電力中央研究所 佐藤 幹夫

総合討論（30分）

司会 神奈川大学 原村 嘉彦

参加人員：87名（一般：59名（事前申込み：55名、当日申込み：4名）、講演者：6名、運営委員：19名、受付支援：3名（産業技術センター：1名、学生アルバイト：2名））

総括：予想を上回る参加者で、後ろに用意した補助席まで満杯になる盛況であった。話題提供では黒川先生（横国大）から新エネルギーに関する全般的なお話を、高久氏（神奈川県環境農政部）から行政側の目標と取り組みのお話を戴き、それに応える形で産業界から井ノ口氏（日産）、鈴木氏（JFEエンジニアリング）、加藤氏（日精オーバル）、佐藤氏（電中研）から各方面の取り組みについて事例紹介戴いた。総合討論では事例紹介戴いた6名に前方席に移動戴き、原村先生の司会で、会場参加者の質問を適宜受けながら予定時間をオーバーするくらい闊達な討論ができた。

以上



神奈川ブロック
小中高生のための見学会
「全日空 機体工場見学」

羽田空港に隣接の全日空機体工場の見学会を以下のように開催します。機体整備に携わっているエンジニアのお話や飛行機の製造に関するビデオを見て、実際の整備作業中の飛行機を見学する予定です。普段見慣れているのと違う飛行機の姿を見ることができると思いますので、是非ご参加ください。

開催日	2006年8月28日(月) 14:00～15:30 (集合は13:30です)
集合場所	東京モノレール「新整備場」駅の出口
見学場所	全日空 機体工場 集合場所から徒歩で10分ほどかかります。
見学内容	飛行機と整備についての説明 飛行機の製造についてのビデオ上映 整備作業中の飛行機の見学
参加費	無料
参加資格	小学生以上。ただし、小学生の場合、1名の保護者が付き添って下さい。
定員	50名(保護者の方を含みます)

※応募者が多数の場合、定員の半数までは、日本機械学会のジュニア会友を優先とし、残りの半数につきましては抽選とさせていただきます。

※小中高生になるべく多く参加頂きたいので、付き添いの保護者はお一人とさせていただきます。

申込方法

1. E-mail: 神奈川ブロックのメールボックス: kanagawa@jsme.ac.jp に、件名を「小中高生のための見学会申込」とし、以下の必要事項を送信ください。

- ①氏名
- ②性別
- ③学校名
- ④学年
- ⑤連絡先(電話, E-mail, FAX)
- ⑥日本機械学会のジュニア会友の有無
- ⑦保護者が参加される場合、保護者氏名、参加者との続柄

2. 郵送: 上記 E-mail の場合と同じ必要事項を官製ハガキに記載し郵送して下さい。

送付先：〒223-8522 横浜市港北区日吉 3-14-1

慶応義塾大学理工学部機械工学科 澤田達男

申込締切 2006年7月31日必着

参加決定連絡 8月上旬、参加決定者のみに連絡いたします。

問合せ先 慶応大学理工学部機械工学科 澤田達男

E-mail: sawada@mech.keio.ac.jp, 電話 (045) 566-1504

小中高生のための見学会「全日空 機体工場見学」

開催日時

2006年8月28日 14:00～15:30

行事内容

飛行機と整備についての説明

飛行機の構造に関するビデオ上映

3グループに分かれて、整備中の飛行機見学

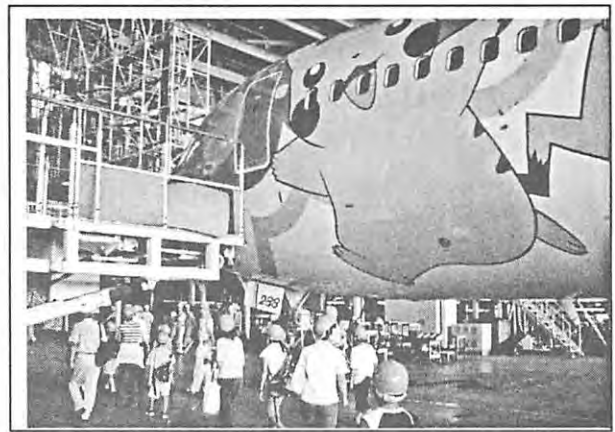
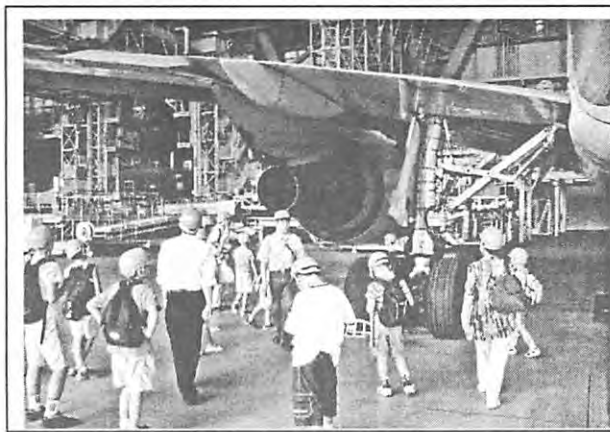
参加費

無料

参加者

小学生：32名，中学生：2名，保護者：25名

運営委員：3名，アルバイト学生：2名



2006年度 日本機械学会 関東学生会 神奈川ブロック行事

夏期研修会 “第三海堡撤去物見学と港湾工事関連技術に関する講演”

第三海堡は、明治中期以降に東京湾口に設けられた東京防衛のための砲台を備えた三つの人工島の内の一つです。この海堡は、関東大震災によって倒壊し、殆どが海中に没しましたが、これを原因とする海難事故が多発したため、現在、その撤去作業が行われています。本行事では、この第三海堡からの撤去構造物の見学会と、第三海堡撤去工事を中心とした港湾工事関連技術に関する講演会を行います。

[開催日]

2006年9月6日(水)～9月7日(木)

[行事内容]

9月6日(水)：9:30～12:00

- ・国土交通省東京湾口航路事務所展示室見学
- ・第三海堡撤去に関するビデオ鑑賞
- ・追浜展示場見学（第三海堡撤去物の見学）
（見学終了後、関東学院大学葉山セミナーハウスに電車で移動）

9月6日(水)：14:30 予定～(宿泊)

- ・講演会
講演題目：「第三海堡撤去工事を中心とした港湾工事関連技術について」
講師：東亜建設工業株式会社 銅冶 祐司
- ・懇親会

※同セミナーハウスでの宿泊となります。

9月7日(木)：朝食後現地解散

[集合場所・時刻]

集合場所：国土交通省東京湾口航路事務所，9:20

(〒238-0013 神奈川県横須賀市平成町 3丁目 21番 44)

集合時刻：9:20

[集合場所への交通]

京急線「京急横須賀中央」駅または「県立大学」駅より徒歩 15分

(地図：<http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/wankou/gaiyo/index.htm>)

[宿泊先]

関東学院大学 葉山セミナーハウス

〒240-0112 三浦郡葉山町堀内 1387

TEL : 046-875-0133 FAX : 046-875-9858

J R 逗子駅または京急新逗子駅から“長井／市民病院／佐島マリーナ入口／福祉文化会館／衣笠／湘南国際村（大道経由）方面ゆき京急バス乗車、「風早橋」下車、バス 10 分／徒歩約 10 分

[定員]

20 名（先着順）

[参加費]

学生員：2,000 円（宿泊費込）

非学生員：2,500 円（＼）

[申込方法と締切]

7 月 31 日(月)までに、r200570045@kanagawa-u.ac.jp 宛 E-mail でお申し込みください。
メール件名に「夏期研修会参加申込」と題し、以下の必要事項を送信してください。

- ①氏名
- ②所属（大学・学部・学科・学年等）
- ③電話番号
- ④E-mail アドレス（夏休み期間中も連絡可能なもの）

[問い合わせ]

学生会神奈川ブロック幹事校 運営委員

神奈川大学大学院機械工学専攻

中西研究室 伊佐見 幸洋

E-mail r200570045@kanagawa-u.ac.jp

夏期研修会情報 <http://www.jsme.or.jp/kt/kanagawa/>

以上

学生会行事実施報告書

(1) ソフトボール大会

9月1日(金)に追浜球場にて開催予定であったが雨天の為中止

(2) 夏期研修会 “第三海堡撤去物見学と港湾工事関連技術に関する講演”

[開催日]

2006年9月6日(水)～9月7日(木)

[行事内容]

9月6日(水)

9:30-10:00 国土交通省東京湾口航路事務所展示室見学

10:00-10:30 第三海堡撤去に関するビデオ鑑賞

10:30-11:30 追浜展示場見学(第三海堡撤去物の見学)

(見学終了後、関東学院大学葉山セミナーハウスに電車で移動)

16:00～18:00 講演会

講演題目:「第三海堡撤去工事を中心とした港湾工事関連技術について」

講師: 東亜建設工業株式会社 銅冶 祐司 様

18:00～20:00 懇親会

9月7日(木): 朝食後現地解散

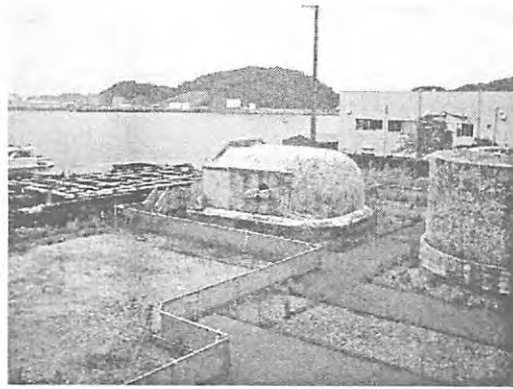
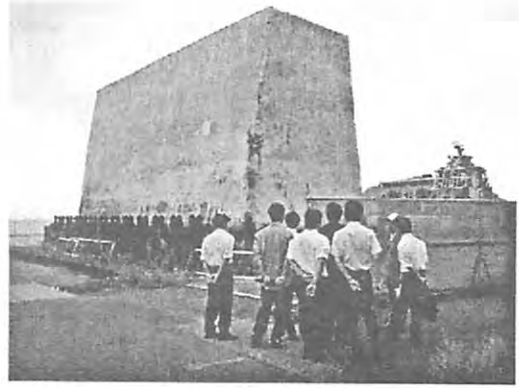
[参加費]

学生員: 2,000円(宿泊費込)

非学生員: 2,500円(〃)

[参加人数]

18名(学生員14名, 運営委員4名)



第 17 回神奈川県産官学交流会

「技術で支える安心・安全を神奈川から」

第 17 回神奈川県産官学交流会を開催します。今回は「技術で支える安心・安全を神奈川から」をメインテーマに浜中順一氏に特別講演を戴くと共に、“安心・安全を支える技術”をテーマに神奈川県下の企業や NPO の方々に事例紹介を戴く予定です。会場は石川島播磨重工業（株）横浜事業所をお願いしており、工場見学を併せて行います。これらの行事に続いて懇親会を予定しておりますので、この場を活用して技術交流の実効を上げていただければと思います。

なお、この行事に先だって神奈川ブロックの本年度の総会を開催いたします。総会にもご参加いただき、今後の運営についてご助言いただければ幸いです。

開催日 2006 年 11 月 10 日（金）13:00～19:00

会場 石川島播磨重工業（株）横浜事業所（横浜市磯子区新中原町
1 / JR 根岸線「新杉田」駅下車徒歩 10 分）

プログラム

【第 1 部】 神奈川ブロック総会（13:00～13:30）

- (1) 挨拶 神奈川ブロック長 原村嘉彦（神奈川大学）
関東支部長 久保田裕二（（株）東芝）
- (2) 神奈川ブロック活動報告

【第 2 部】 産官学交流会（13:30～17:30）

「技術で支える安心・安全を神奈川から」

- (1) 挨拶 産官学交流会実行委員長
石川島播磨重工業（株）横浜事業所長 川嶋鋭裕
- (2) 特別講演
「ボイラ機器の信頼性設計 ～不具合から得た教訓～」
石川島播磨重工業（株）顧問 浜中順一
- (3) 講演会
「自動車安全技術の向上」
日産自動車(株) 総合研究所モビリティ研究所長 木下明生
「IT と RT(Robot Technology)を基盤とした国際救助隊サ
ンダーバードの実現を目指して」 電気通信大学 教授,

NPO 国際レスキューシステム研究機構 副会長 松野文俊
「安心・安全に寄与する短距離レーダ開発 生存者探査機
～バイタルサイン測定からセキュリティー用途まで～」
(株)タウ技研 企画開発部長 後藤眞二

(4) 工場見学

「大型機械の製造工場」

【第3部】 神奈川ブロック表彰式・懇親会 (17:30～19:00)

参加費 (懇親会費を含む。当日会場にてお支払いください。)

一般 3,000 円, 学生 500 円

定員 100 名 (先着順)

参加申込み

件名に「神奈川県産官学交流会」と題記し、神奈川ブロックのメールボックス：kanagawa@jsme.or.jp 宛に、氏名、所属、会員資格、連絡先をお送りください。下記宛 FAX での申し込みも受け付けます。締切後または 11 月 2 日までに案内状を送付いたします。なお、定員に達し次第締め切りますので、その際はご了承ください。

問い合わせと FAX での申込み先

〒235-8501 横浜市磯子区新中原町1番地 石川島播磨重工業(株)
笠 俊司 電話(045) 759-2825, FAX (045) 759-2208.

その他

- (1) 同業他社の方は、工場見学のみ、ご参加をご遠慮戴きます。
- (2) お車でのご来場はご遠慮下さい。

第 13 期神奈川ブロック表彰

【感謝状】

JHFC パーク

神奈川県産業技術センター

全日空 機体工場

国土交通省東京湾口航路事務所

石川島播磨重工業(株)横浜事業所 [関東支部表彰]

【技術賞】

受賞者：ピー・エス・シー(株) 厚木工場

対象技術：精密圧力制御弁の開発

推薦人：安田 誠 [神奈川県産業技術センター]

【功績賞】

市川 和芳 [(財)電力中央研究所]

大谷 利一 [日産自動車(株)]

加藤 和典 [湘南工科大学]

【学生奨励賞】

伊佐見 幸洋 [神奈川大]

小寺 弘晃 [東海大学]

林 聡一郎 [湘南工科大]

藪根 博幸 [関東学院大]

(別表)

日本機械学会神奈川ブロック・「学業優良賞」(表彰候補者名簿一覧)

No.	学 校 名	課 程	氏 名	卒業式期日
1	県立川崎工業高等学校	全日制	青山 卓哉	3月3日(金)
2	県立向の岡工業高等学校	全日制	廣田 岬太	3月2日(木)
3	県立向の岡工業高等学校	定時制	該当なし	
4	県立神奈川工業高等学校	全日制	高橋 準	3月2日(木)
5	県立神奈川工業高等学校	定時制	祝迫 寿	3月2日(木)
6	県立磯子工業高等学校	全日制	勝山 尚	3月2日(木)
7	県立磯子工業高等学校	定時制	村田 貴史	3月2日(木)
8	県立商工高等学校	全日制	佐々木 昂	3月2日(木)
9	県立横須賀工業高等学校	全日制	古仲 聡	3月3日(金)
10	県立藤沢工科高等学校	全日制	川口 悟史	3月11日(土)
11	県立神奈川総合産業高等学校	全日制	繁田 孟伯	3月3日(金)
12	県立神奈川総合産業高等学校	定時制	西村 卓	3月6日(月)
13	県立平塚工科高等学校	全日制	穴澤 勇人	3月4日(土)
14	県立小田原城北工業高等学校	全日制	猿渡 光信	3月2日(木)
15	県立小田原城北工業高等学校	定時制	八重樫博史	3月2日(木)
16	市立川崎総合科学高等学校	全日制	吉田 翔平	3月2日(木)
17	市立川崎総合科学高等学校	定時制	該当なし	
18	市立鶴見工業高等学校	全日制	横山 健裕	3月3日(金)
19	市立鶴見工業高等学校	定時制	木下 孝泰	3月3日(金)
20	市立横浜総合高等学校	定時制	尾尻 歩	3月17日(金)
21	市立横須賀総合高等学校	全日制	根岸 浩太	3月3日(金)
22	市立横須賀総合高等学校	定時制	浅葉 徳義	3月3日(金)
23	横浜創学館高等学校	全日制	該当なし	
24	三浦高等学校	全日制	野口 佳祐	3月1日(水)
25	県立三崎水産高等学校	全日制	守屋 和浩	3月4日(土)

合計 22名

第2章

第17回神奈川産官学交流会

テーマ「技術で支える安心・安全を神奈川から」

- 2-1 あいさつ 31
(産官学交流会実行委員長) 石川島播磨重工業(株)横浜事業所長 川島鋭裕
- 2-2 講演要旨
- 特別講演
- 「ボイラ機器の信頼性設計 ～不具合から得た教訓～」 33
浜中順一 (石川島播磨重工業(株) 顧問)
- 講演会
- 講演1「自動車安全技術の向上」 35
木下明生 (日産自動車(株) 総合研究所モビリティ研究所長)
- 講演2「ITとRT(Robot Technology)を基盤とした国際救助隊サンダーバード
の実現を目指して」 43
松野文俊 (電気通信大学教授, NPO 国際レスキューシステム研究機
構副所長)
- 講演3「安心・安全に寄与する短距離レーダ開発 生存者探査機 ～バイタル
サイン測定からセキュリティー用途まで～」 50
後藤真二 (タウ技研 企画開発部長)

あいさつ

日本機械学会神奈川ブロック関東支部

第16回産官学交流会実行委員長

川嶋 鋭裕

(石川島播磨重工業(株)横浜事業所長)

本日は皆様ご多用のところ、私ども石川島播磨重工業横浜事業所によるこそお越し頂きました。日本機械学会関東支部神奈川ブロック神奈川県産官学交流会を当事業所で開催させて頂く運びとなりました。交流会の開会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

私ども石川島播磨重工業横浜事業所は、産業機械を中心とした大型機械と原子力を中心とした大型容器の製造工場を擁し、これに本社組織である技術開発部門を加えた、社内でも随一の規模を誇る事業所でございます。海側には、関連会社でございますアイ・エイチ・アイ マリンユナイテッドの造船工場も隣接し、陸海の製品を生み出してきた東の製造拠点でございます。

本日のメインテーマになっております「技術で支える安心・安全を神奈川から」は、正に時宜を得たテーマかと思えます。ここ1年を思い返しましても、一連の耐震偽装問題や羽越本線での特急列車脱線転覆事故など市民の生活を脅かす事件、事故が多発しております。一方で、九州および四国で原子力のプルサーマル計画が動き始める模様でございます。安心・安全を支える技術によって新たな扉が開かれようとしています。このように、機械工学は我々の暮らしを支え、安心・安全をもたらす重要な役割を担っていると思えます。

今回は、特別講演として浜中順一氏に「ボイラ機器の信頼性設計 ～不具合から得た教訓～」と題してお話いただきます。必要が発明の母であるように、失敗は成功のもとであります。失敗はあってはならないことですが、失敗を覆い隠すのではなく、失敗から学ぶ努力を怠らず、次なるチャレンジの礎とする気概が、工学の発展を支えてきた原動力であると信じます。本日は、こうした視点からのご経験をお話いただけるものと期待しております。また、引き続きまして神奈川県下の企業、NPOの皆様にも、安心・安全にちなむ光る技術のご講演をいただきます。

これらのご講演を通じまして、本日の産官学交流会が皆様にとりまして実り大きいものとなりますことを期待しております。最後に、本交流会に微力ではございますが貢献させて頂けることを感謝申し上げます。